

平成 19 年 11 月 1 日（木）、芦北町吉尾公民館において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」が開催されました。

同報告会には、約 30 名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

質疑の際には、下記のとおりご意見等をいただきました。

参加者数※

町内	23 名
町外	2 名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問

【河川整備基本方針の説明について】

- ・基本高水流量は見直すべきだと考えている。その理由としては、国交省は（小委員会では森林には保水力があると説明しているが）、以前は森林の保水力は無いという結論を私たちに説明していた。これに関しては素直に誤りを認めて欲しい。
- ・私たち林業伐採者に対し植林をすればいいと行政は指導しているが、保水力があるならば、私たちに協力をお願いすべきではないか。私たちが植林しなければ、なおさら洪水緩和機能の増大は期待できないのではないか。

【球磨川の治水対策について】

- ・球磨川の沿川で生活する人達は、球磨川の恵みで豊かに生活してきたが、瀬戸石ダムができてから大きく変わった。ダムを造ることには反対したが、ダムを造ることで水害が無くなるということで行政、発電会社から説得され、ダムができた。現状では私たちが住んでいるところは毎年水害にあっており、ダムを造ることで水害が無くなるというのは全て嘘だった。
- ・県の市房ダムの放水によっても災害に遭っていることを体験している。ダムが無いことが私たちにとっては一番大切なこと。報告会での説明はダムありきでの話にしか聞こえない。
- ・森林の洪水緩和機能にも限度があるというが、いろんな方法によってダムを造らなくても洪水をどうにかできるのではないか。
- ・2～3年ほど前までは、行政の方から「今から市房ダムの放流をする」という連絡がこの地域にはあった。連絡後、2時間余りしてからかなり水位があがってきた。これを見ると水位の上昇は市房ダムに関係があると誰もが思う。私たちは市房ダムのおかげで洪水が起こるという認識を持っている。
- ・中流部の簾瀬地区は（道路の浸水により）10年に1回くらい孤立する。それについてどう考えているのか。吉尾大橋も一向に進まない。
- ・支川吉尾川について、S57年災害時に整備されたが、現在、川底が葦によってだんだん砂が溜まっており、雨が降るたびに水位が少しずつ上がっている。いつか大きな雨が降ったときに、（葦の影響で）また水害が起こるのではないかと思う。一部葦を取り除いているが、その上流の方も早急に取り除いて欲しい。
- ・市房ダムと川辺川ダムの双方で連絡を取り合っ、いくらかでも洪水調節ができるのではないかと思うので、川辺川ダムは是非造ってもらわないといけないと思っている。
- ・市房ダムと瀬戸石ダムの連携をとって操作してほしい。連携をとって地元にも説明して欲しい。H17年水害の時も1時間で水が道路に入ったが、もう少しで流されそうな場面もあった。
- ・瀬戸石ダムの洪水時の状況については広報が無い。
- ・球磨川は各支流が流れて初めてその本流の問題が考えられる。支流の吉尾川についても十分配慮して欲しい。

【球磨川の環境について】

- ・東京から清流球磨川を見に来た人が、水が濁っていたので清流なんてどこにも無いと怒って帰ると言い出したと聞いたことがある。ダムが無ければきれいに流れていたと思う。ダムを造った方達はどう思っているのか。

・以前は吉尾川でも豊かな恵みが得られたが、肥薩線が建設される際に吉尾川の球磨川との合流点が球磨川に対して直角に付け替えられたために、魚の遡上が無くなってしまっている。球磨川の管理、洪水調節の問題が主に言われるが、魚族の繁殖についても格段の配慮をして欲しい。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ ご質問への回答については、アンケートで寄せられたご質問への回答と合わせて、後日 HP に掲載させていただきます。

